

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	「利用者の人格を尊重し、利用者の立場に立ったサービスに努める」	○	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスにしたい。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々、取り組んでいる。	○	個々の人格を尊重したサービスを続けていきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	職員の態度や日々の介護に対する姿勢などから、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	○	地域の人々とかかわりを持っていきたい。
ちいきのひと				
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩時など、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったりしている。	○	施設周辺が散歩コースになっているので、隣近所の人に気軽に立ち寄ってもらえようしていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の一員として、町内会や小学校の運動会に参加したり、希麗会の清掃活動や町内会の清掃活動に交代で参加し、地域の人々と交流することに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者は、一階のデイサービスを利用されているが、日々の業務に追われ、事業所として話し合ったり、取り組んだりしていない。	○	事業所として、職員と話し合いをし、暮らしに役立つことがないか考えていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し、改善に取り組んでいるが、日常生活におわれているのが現状である。	○	真摯に受け止め、できてないところは改善に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や職員の近況報告や家族会、評価の報告等を話し合い、意見などをサービス向上に活かすようにしている。	○	回数を増やし、サービス向上に努めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月初めに利用者数の報告について介護保険課を訪問し、担当者と近況を話したり、月に二回、鳴門市介護相談員さんの訪問を受け、利用者の話し相手になり、悩みや相談にのっていただき、利用者も家族以外の親しい人として楽しみにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者や職員は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、必要性について話し合っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学び、事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	○	今後も、虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結ぶ際は不安や疑問点など尋ね、十分な説明をし、理解や納得を得られるように努めている。</p>	○	不安や疑問などもたれないように努めていきたい。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が管理者や職員、家族、鳴門市介護相談員さんに意見や不満、苦情がでたときは、反映させるようにしている。</p>	○	真摯に受け止め、介護や運営に反映させていきたい。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の利用料金の請求時に便りや手紙を入れたり、個々にあわせて報告したりしている。</p>	○	今後も日常の暮らしぶりがわかるような報告を考えていきたい。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者や職員に意見、不満、苦情等を言えるような、関係づくりを心がけている。</p>	○	真摯に受け止め、介護や運営に反映させていきたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体会議を開き、職員の意見などを聞く機会を設け、反映させるようにしている。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の健康状態や要望からの急な行事など、職員の協力により、職員の確保や勤務の調整ができています。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>八年間で6名の離職で、あまりダメージは受けてないように感じる。ダメージを受ける利用者には、事前に説明をして理解を得るようにしている。</p>	○	離職者がいた場合は、最小限にとどめていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順番に認知症介護実践者研修やリーダー研修を受講し、グループホーム協会などの研修を受ける機会を設けている。	○ 研修には、参加していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	徳島県認知症介護実践者研修などで交流する機会を持ち、実習などで相互訪問し、施設の運営に役立てている。	○ 交流を通じて、サービスの質を向上させていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	月に一回、全体会議で管理者や職員と話し合いをし、意見を聴き、ストレスの軽減に努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は個々の努力や実績、勤務状況などを把握し、向上心を持って働けるように努めている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	デイサービスや家庭訪問をしたりして、顔をあわせたり、本人から話を聴いたりして、受け止める努力をしている。	○ これからも、利用されるまでの信頼関係を築く努力をしていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家庭訪問をして、家族とコミュニケーションをとり、不安なことや求めていること等のよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	○ これからも、利用されるまでの信頼関係を築く努力をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一階のデイサービスの利用や他のサービスをすすめたり、考えたりするようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイサービスを利用しながら、二階のグループホームに遊びにきていただいたりして、雰囲気に馴染めるようにしている。	○	本人が安心し、納得したサービスを利用できるようにしたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族のような関係を保ち、職員が相談したり、意見を聴いたりして参考にすることがある。利用者のできていたことができなくなったり、できなくなったことができるようになったりし、喜怒哀楽を共にしている。	○	喜怒哀楽をともにし、支えあう関係を今後も築いていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	よく話しをして協力しながら、一緒に支えている家族もいるが、多忙で面会ができない家族もいる。面会に来てもらえるように電話したり、便りをだしたりしているが難しい。	○	家族との関係を、一緒に支えあえるようにしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時など家族と話し合う機会をつくり経過説明をして、本人と家族とのよい関係が築けるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの病院や店などとの関係が途切れないように通院したり、近所へ行ったり、地域の集まりなどに参加したりしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一緒に協働作業をしたり、ゲームなどをして、利用者同士が仲間外れにならないようにしている。	○	職員や利用者ができない人に対して思いやりの心を持って接することができるようにしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院した情報が入るとお見舞いをしたり、町で出会ったときには近況を尋ねたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方や希望を本人や家族に聴いたりし、意向に沿うように努めている。困難な場合は体調を考慮して、個々に検討している。	○	個々の希望や意向の把握に努めている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から、入所時や面会時などで生活歴や生活環境などについて教えてもらい、本人を知るように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人ファイルや申し送りや連絡ノートなどで情報を共有し、現状を把握するように努めている。	○	職員の休日での利用者の現状を把握するように努めたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の見直しを行い、家族に意見をきいたりしているが、まだまだ充分とはいえない。	○	利用者が何を望んでいるのかを聴き、意見を反映させたものにしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画者が中心になり、毎日、介護職員が書く利用者ごとにケアチェック記入したのを見直して話し合いをもっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や気づきを個別記録、申し送りや連絡ノートに記入し、介護計画の見直しや情報の共有に活かしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況や要望に応じてできるだけ柔軟な姿勢で対応するようにしている。(お寺の行事参加など)		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小学校の運動会に招待されたり、交流会に参加したりしている。	○	色々な機関に協力を求めている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	一階デイサービスを利用しているが、地域の他のサービスは利用していない。	○	費用がいらず利用できるのなら、考えていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入所時は意向や必要性などを協働することもあるが、入所後は実施していない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を聞き、入所前からの主治医が3名、6名が週1回往診を受け、個々に対応(通院)している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門等の医師と関係を築きながら、相談したり、治療を受けたりして支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	一階デイサービスの看護師に朝、バイタルチェックを受け、異常があれば、通院などの指示を受けている、傷の治療や浣腸などの処置をしてもらっている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は交代で見舞いに行き、病院関係者と情報交換をしたり、相談したりしている。食事時間に付き添って、食べるように進めることもある。	○	安心して入院できるように、できるだけ情報交換などに努める。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師や家族と相談しながら、個々の方針を決めている。状態や症状の変化等の医師の説明については、家庭訪問や電話等で家族に説明している。看護師がいないことについて、理解してもらっている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	病院スタッフや医師と連絡を密にとり、できること・できないことを見極めて取り組んでいる。重度化したときなど、その時々々に検討している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	関係スタッフと情報交換や話し合いを行い、ダメージを防ぐことに努めている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを敬い、尊重する言葉がけを心がけているが、充分ではないように思える。	○ 誇りやプライバシーを損ねないように充分注意していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思いや気持ちを聴いたり、理解してもらえるように話しをしたりして、自分で決めたり、納得して暮らせるように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	テレビや新聞などから、見に行きたいと希望される場所に出かける機会を作って支援するようにしている。事前に外出が分かっていると、うきうきされ、大きな子どもになっている。見ていてほほえましい。	○ 希望にそって支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	なじみの美容院へ行ったり、出張美容を利用したりしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人の方が盛り付けや配膳等に参加し、反対に職員のほうが指示され、手伝いをする時がある。テーブルに座って漬物を盛り付ける方もいるが、足元が不自由だったりして難しい面もあり、できることからしてもらっている。	○ 個々の力を活かして考えていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	2名の利用者が自己管理できているが、食べ過ぎるときもある。ご主人が奥様の好きな和菓子を他のの方の分まで持参され、協力していただいている。	○ 手作りおやつを増やしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンに合わせて、誘導し、トイレで排泄出来るように支援しているが、利尿剤を服薬の利用者もいて、上手いかずパット交換になったりしている。	○	トイレ誘導に時間がかかり、一人でできる方との時間差がみられるが、上手くトイレで排泄ができるように努力していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴を実施。順番でまた、トラブルになってしまったので、居室の一番より九日に一度、一番が来るようにしている。入浴前にバイタルチェックし、体調不良者や、自己中止者は入浴を止めている。	○	浴室の前までは問題なくいかれるが、脱衣するようになると、理解できない方がいてトラブルになることがある。気持ちよく入浴できるようにしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の体調などにより、休息をとったり、眠れるように支援をしている。ドライブなどの外出には参加していただいている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりを職員が理解し、個々に応じた役割や楽しみごとの支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に応じて、お金を所持して使ったり、購入時にお金を持って支払いをする方がいる。できない方は職員が代わっている。	○	買い物の回数を増やしていきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望により、買い物や職員の仕事の付き添いに行き、ドライブしたり、雨天以外は、建物の周辺の散歩をしている。昼、夕と散歩する利用者もいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	テレビや新聞などから、見に行きたいと希望される場所に出かける機会をつくり、支援している。	○	希望に添えるように、人員確保など努力していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されれば、電話をしたり、話をしたりする。家族からの電話はできるだけ、取り次ぐようにしている。年賀状は出すようにしており、今年初めて年賀状の返事が届いた家族がいて、喜ばしいことである。	○	電話などの支援を増やしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも面会、訪問でき、一階デイの利用者や家族等、居室やホールで話をされている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、職員が理解しており、やむを得ず身体拘束をする場合は、家族、本人に話をし、理解を求めるようにしている。夜間、昼夜逆転の利用者がパジャマを脱いだことが原因で、二度発熱し、家族の許可をもらって、やむを得ず、夜間のみ、つなぎ着用している利用者が1名いる。	○	できるだけつなぎを着用しないようにしていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	二階に位置し、入り口が急な階段のため、安全予防(転落の防止)として施錠している。利用者の中で自他の区別の付かない方がいて、居室に鍵を掛けて出てこられたり、鍵の管理のできない方は職員が代わって掛けたり、開けたりしている。お金などで開けることができるができない方が6名いる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	巡回や見回りなどで所在の把握に努め、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態により、片付けたり、出したりしている。利用者から、危ないと教えてもらうことがある。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりの状態に応じた自己防止に取り組んでいる。	○	転倒など十分に気をつけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の急変時は、看護師の指示をあおぎ、救急病院や主治医の病院に搬送している。	○	応急手当や初期対応の訓練を実施する。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回消防署職員立会いによる火災や地震、夜間想定避難訓練をし、職員が利用者になって避難方法を身につけている。町内会の協力をお願いしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入所時や面会時また、電話、家庭訪問等をし、利用者の状態に応じて、リスクについて、家族に説明する機会を設け理解してもらえるようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りや連絡ノートを活用し、情報の共有に努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的などについて理解しており、連絡ノートに薬の変更を記入している。往診表や申し送りに体調の変化を記入し往診や通院時に参考にするようにしている。	○	充分に気をつけていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	原因や影響を理解し、散歩や体操などで身体を動かしたり、食事の工夫や水分の補給、朝食時の牛乳摂取等に気を配っている。頑固な便秘の利用者がいて、下剤や洗腸に頼らなければいけない場合がある。	○	スムーズに排便ができるように努力していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	年一回、歯科医師の検診を受け、アドバイスにより、毎食後の口腔洗浄に努めている。できない利用者には磨くお手伝いをしたり、拒否される利用者には職員が交代したりしてできるだけ清潔にするように心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の摂取量を記入し、食事状態が悪いときは医師に相談したり、栄養バランスを考えて、栄養食品を使用したりしている。	○	水分を摂取するのが難しく、中々取ってもらえない。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防や対応の取り決めがあり、利用者、職員共に手洗いの励行に心がけている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	賞味、消費期限をチェックし、常に新鮮な材料を選び、調理している。調理器具を食器乾燥機やハイターにつけたり、常に衛生面には注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設専用の入り口を設置し、自由に出入りできるようにしている。初めての方は受付がないので途惑われたりしているが、二度目からは気軽に二階へ来られている。	○	自由に出入りできるように、もっと工夫していきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	周りが海に囲まれ、明るく、光がよく入り、カーテンなどを使用して居心地よく過ごせるように配慮している。	○	快適に過ごせるように気をつけていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、廊下などに応接セットや畳ベッドを置き、自分の好きな場所で個々に過ごせるようにしている。遊びとして、布団や衣装ケースを置いていたり、折り紙などの創作物を共同の棚に置いている人もいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に家族に依頼して、使い慣れた物や好みの物を置いたりして居心地よく過ごせるようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空気の入替えや異臭の除去に努めている。夜は早めに冷房、暖房をいれて温度調節をし、心地よく眠れるようにしている。	○	異臭の除去に努めていきたい。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口にてすりをつけたり、畳と入り口の段差にスロープをつけたり、歩行器やシルバーカーを押して歩いたりして、できるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	○	全室が畳なので、工夫していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの力を活かして、見守りしながら、自分でできる身の回りのことをしてもらっている。貼り絵をしたり、名前を書いたりしている。	○	洋式トイレの中の水の理解ができず、拭き掃除に使われ、混乱している。何もしたくない利用者がいて、もてる力を活かしていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物周辺を散歩したり、ベランダでは草花を植えたり、洗濯干し場のスペースを作って手伝ってもらったり、歩かれる利用者もいて活動できるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

施設の東と南側が海に面し、鳴門のウチノ海や島田島が目の前にあり、風光明媚である。利用者の方は、朝、太陽の光に起こされ、日常生活の中で自然と共存している毎日を過ごされている。建物周辺の散歩を日課とし、希望を取り入れテレビや新聞を参考に、外出やドライブに出かけている。職員の平均年齢は他の施設と比べ高いように思うが、おばさんパワーで、介護に取り組み、よく動いている。「利用者の人格を尊重し、利用者の立場に立ったサービスの提供に努める」を理念とし、利用者と職員が和気藹々と家族のようなお付き合いをしています。